

令和6年(2024年)度 伊那北高等学校 評価表

教育目標		中・長期的目標	
1 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。 2 躍如として学業にいそむ。 3 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。 4 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。		1 学習・部活動などに主体的に取り組み、将来を自ら切り拓く力をもった生徒の育成をめざす。 2 地域の実情、要望を正しく理解し、伊那北高校の将来を見据えて施設・設備を含めたビジョンを明らかにする。	
		重点目標	
		1 「いじめ・体罰」のない安心安全な教育環境を整え、一人一人が輝く学校にする。 2 チームとして「3つの方針」に沿った授業実践と教育課程の進化を目指す。 3 100年の歴史を礎に、地域社会と協働し持続可能な社会・学校づくりを目指す。	

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	具体的方法	主な評価の材料	成果と課題	改善策・向上策	関係校務分掌		
教育活動	進路・学習に関わる指導	2 3	進路意識の醸成	生徒自ら課題を見つけ積極的に取り組み、進路に対する意識を高めることができるような機会を設定し、情報発信等を行うことができたか。	・総合的な探究の時間、学際探究、理数探究基礎、理数探究、生徒会活動、部活動等において、生徒が自ら課題を見つけ活動し、発信する取り組みが行えるようにする。 ・外部と連携しながら、体験活動、講演会等の機会を設定し、積極的取り組みを促す。 ・体験活動や、外部講師を招いての講演会実施が困難な場合、それに代わるオンラインを利用した機会を設定する。 ・進路に関する資料や冊子等を、精選した上で配布し、進路意識の醸成を図れるよう活用する。 ・オープンキャンパスやオンライン大学説明会等の情報についても、精選した上で発信していく。	生徒アンケート	・「総合的な探究の時間」「理数探究基礎」「理数探究」などの探究活動における指導が洗練されてきた。「学際探究」も実施2年目となり、成果や課題が明らかになった。生徒アンケートの結果でも、生徒がこれらの活動を好意的に受け止めていることが分かっている。加えて、外部からの評価も高い。 ・外部と連携しながら、体験活動、講演会等の機会を設定し、積極的取り組みを促すことができた。 ・コロナ禍も終息し、体験活動や外部講師を招いての講演会等の実施に当たっては困難はなかった。一方、世の中が進化してオンラインに置き換わった催し等も増えてきている。 ・進路に関する資料や冊子等を、精選した上で配布し、進路意識の醸成を図れるよう活用することができた。 ・オンラインオープンキャンパスやオンライン大学説明会等の情報についても、精選した上で発信していくことができた。	・校外における生徒による発信の機会を増やすために、地域や他校との連携を深めていきたい。 ・講演会や研修会については、目的に応じて対面とオンラインとを使い分けながら実施していきたい。 ・進路に関する冊子や資料だけでなく、オンラインでのオープンキャンパスや大学説明会等の情報についても積極的に発信していきたい。 ・生徒会行事だけでなく、日々の生徒会活動においても生徒が課題を見つけ、解決策を探究できるよう促していく。	進路指導		
				2	進路実現	進路指導計画を作成し、生徒・保護者との連携を深め、生徒が自己の進路志望を明確にできるようにする。 ・第一志望の進路実現に向けての計画を作り、実現できるようにする。 ・定期検査や外部模試、昨年度の共通テスト等の結果を分析し、課題を共有し、授業や補習の機会を通じて生徒に還元する。	成保生徒就労者アンケート	・様々な場面において、伊那北高等学校としての進路指導方針について、教員間で共有を図り、生徒・保護者へ説明することができた。 ・授業評価アンケートで、生徒からの自由記述について、建設的な意見が得られるよう工夫を図った。また、定期検査や外部模試などの結果を分析から、上手くいったこと、上手くいかなかったことについて分析を行ってきた。これらを教科内、および教科間で共有したことで、より良い授業を設計することが可能になった。さらに、そのより良い授業方法を教員間や生徒にICTで共有することによって、学習効率が向上した。	・進路指導方針の共有、個々の生徒に対し職員全体で指導に当たる体制の確立、模試の意義について積極的に生徒へ周知を図ること、事後指導の重要性の確認等、教員間での認識の共有を今後も継続していく。 ・共通テストに関する分析を教員間で共有し、次年度の授業や定期検査の改善を図る。また、新入試に対して継続的に情報収集を行い、対応できるようにしていく。	進路指導	
				2	授業改善	・授業評価や学力分析を通して授業改善を行うことができたか。 ・解りやすく学習意欲を高める授業の工夫ができたか。 ・教科内連携、教科間連携による授業の効率化が図れたか。	・校内外に向けて授業を公開するなどして研修を行い、教材や授業の共有を進める。 ・授業評価の結果得られた課題を明らかにして、改善に活かす。 ・ICTを活用して、①授業内容の改善を図る。②授業の効率化を目指す。③生徒による自学自習の便宜を図れるよう工夫をする。④個人タブレットの有効な利用法を研究する。 ・教科を超えて「具体と抽象を往還する力」「事象と事象をつなげる力」「ものごとを論理立てて説明する力」をつけるため、互見授業を活発に行い、カリキュラム開発を進める。	授業評価	・5月18日に公開授業を、2月1日に課題研究発表会を行った。本校生徒の保護者や中学生およびその保護者に加え、地域住民の来校がみられた。また、メディアやWVL連携校などに積極的に本校の学習の取り組みを伝えた。その結果もあってか、学校評価アンケートの記載から、本校の取り組みに対するご理解が深まってきていると感じる。 ・互見授業強化週間を実施(弥生ヶ丘高校とも共有)したり、授業評価アンケートの結果を教員間で共有したりすることで、より良い授業の研究が進んだ。 ・「具体と抽象を往還する力」をつけるための取り組みや教科間連携授業(「コラボ授業」を呼称)をいくつか実践した。今後はさらに多くの授業で行うことが課題である。	・指導方法の共有を進めるために、研究会を開催する。研究会では、各人の実践を紹介することで、より良い授業を行うための方法を模索する。 ・他校や他県の授業を見学することで、様々な情報を収集する。	学習指導
				2	家庭学習指導	授業を中心にした家庭学習が行える生活習慣を定着させることができたか。	・教科を超えて課題の量や質を検討することで、3年間を見据えた体系的な家庭学習を可能にする。 ・予習復習や課題への取り組みについて点検し、個人面談などをとおして適切な指導を行う。 ・学習計画を作成させることで、計画的な学習を促し、家庭学習の充実を図る。	各種調査	・担任による個人面談を行うことで、家庭学習の指導を行うことができた。	・昨年度共有した情報をもとに、今後も個別最適な課題の在り方を検討する。 ・学習計画を洗練させるために、進路指導係と協同して3年間を見通した指導計画を立てる。	学習指導
	学校生活に関わる指導	1	生徒の健康管理	読書活動を活発にすることができたか。 ・主体的・自発的な学習を支えることができたか。	・LHRを利用した「読書の時間」を実施する。 ・読書の楽しさや意義を共有するため、本と情報を提供する。 ・授業・探究学習・課題研究・クラブ活動等との連携を深める。また、探究の手法について関係部署で研究を深める。	図書貸出数 図書数 利	・直接貸出数を伸ばすことには繋がっていないが、授業や委員会活動などを通じさまざまな場面で本の情報を提供することができた。 ・探究学習と図書館の連携を深く持つことができた。文献の調査や探究を行う際の図書館の有用性と重要性について、生徒に伝えることができた。	・生徒、教職員にとってより有用な本や情報を収集し発信していく。 ・ガイダンスやレファレンスにおいてICTも有効に活用しながら、その上で図書館の有用性を伝えていく。	図書指導		
				1	生徒の健康	学校生活における生徒の安全管理について徹底ができたか。	・感染症対策も含め、自他の健康について適切に管理し改善していくようにする。 ・学校行事や生徒会行事を運営する際、感染症や熱中症などの対策と安全面でのアセスメントを徹底し、事前チェックと生徒の指導及び当日の危機対応を行う。 ・交通安全および盗難予防指導の実施について、生徒の自覚を促す指導と保護者への理解と協力を図りながら実施する。	生徒アンケート	・特別支援会議、教科担当者会、学年会、職員会など、情報交換をする機会を設定し、生徒の状況を共有することに努めた。 ・相談係(特別支援コーディネーター)が相談室に入室する時間を設定し、生徒・職員の相談に対応した。 ・保健室とも密に連絡を取り、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療機関等外部の専門機関との連携を積極的に図った。 ・職員研修会を年度当初の放課後に設定した。多くの職員が参加し、アセスメントの活用、本校のカウンセリング状況について理解を深めることができた。	・継続してこまめな情報共有を図り、生徒支援につなげる。 ・新校開校に向けて、活動方針を検討・決定し、校内の支援体制を強化する。 ・SC、SSW、医療機関等外部の専門機関とも引き続き積極的に連携をとる。	特生推選 生徒支援 委員 教育 会
				1	校舎内外の配慮	「エコマネジメント長野」に基づきゴミの減量や校舎内外の美化などを推進することができたか。	・ごみの分別、減量に努める。 ・日常の清掃の徹底と点検を行う。 ・部室周辺及びトイレ清掃を徹底する。 ・校外清掃を行い、地域の美化活動に貢献する。 ・電気・水道使用量の節減に努める。	野 エ の コ マ の 評 価 シ ス テ ム の 把 握	・日常の清掃活動状況は概ね良好である。外掃で使う道具の補充と交換を行い、学校周りの清掃にも力を入れた。 ・公共の場でのゴミの持ち帰りの習慣が根付いてきた。日頃からの環境整備活動を通して美化への意識向上させることができた。 ・生徒会と協力して、年に3回(部室移動含)部室清掃を実施した。持ち帰りが習慣づいた分、分別への意識が薄れている。分別の徹底を周知していきたい。 ・電気使用量は年間を通じて前年並みであったが、7・8月はエアコンの温度設定管理を試行した結果、昨年度利用料を下回った。電気料金の高騰もあり、引き続き節電に努める。	・今年度は木床ワックス掛けが実施できなかった。次年度はホームルーム教室と合わせ、特別教室の木床ワックス掛けを計画し、校内の美化に努めたい。 ・モップのクリーニングが実施できなかった。生徒の健康に関わるので、費用面について事務と協議したい。	委員 会 ・ ト ・ 学 長 エ コ ノ ミ ス 推 進
	学校運営	2 3	学校ビジョンの検討	・高校再編等も踏まえ、これからの地域の実情に基づいた、学校ビジョン、教育課程について検討することができたか。 ・大学入学共通テストや学びの基礎診断に対して、対応できる教育課程の検討がなされたか。	・本校の教育目標や3つの方針等について共通理解を図った上で、将来構想検討研修会を開くなどして、進路実現の具体的な方法について検討し、今後の本校のあり方を模索する。 ・3年目となる新カリキュラムについて、職員間での情報共有を行い、円滑に実施していくとともにブラッシュアップを図っていく。 ・大学入学共通テストについて情報収集や研究を進め、入試に対応した教育課程の検討を継続する。 ・新校を見据えた伊那弥生ヶ丘高校とのカリキュラムの統合に向けて、両校で会議や授業見学などの交流を大に行なう。	ア 来 校 者 への ト の 意 見 集 約 等	・5月の土曜授業は、本校生徒の保護者、中学生とその保護者等に公開し、521名の参加があった。また、2月の総合的な探究の時間発表会と課題研究発表会には、フィールドワークでお世話になった方や保護者、一般の方も含め200名程の参加があり、本校の教育活動について理解を深めてもらう良い機会となった。 ・体験入学は454名の参加があり、体験授業も好評であった。 ・HPは、原稿作成から掲載までが円滑に流れ、様々な情報を迅速にアップロードすることができた。	・土曜授業公開は年に1回のみであるので、より多くの方に来ていただけるよう広報する。 ・中学生体験入学は、できるだけ中体連の大会と重ならないようにという中学校側の要望を受け、来年度は7月下旬に計画する。 ・HPは、様々な情報の即時発信を続け、より内容を充実させる。	教務		
				1 2 3	学校評価	・学校評価システムが機能し、課題が克服されたか。	・学校評議員会、学校関係者評価などを通じて頂いた評価について、改善すべき点等検討を加えフィードバックし、その改善・実現に向け全職員で検討していく。	学校関係者への評価	・生徒、保護者、学校評議員対象の「匿名性を担保した学校評価」を実施することができた。どの項目においても概ね高評価をいただいた。 ・学校評議員の方々から、様々なご意見、提言をお聞きすることができた。 ・Formsによる回答をお願いしているが、生徒回収率57.9%、保護者回収率34.87%と、回答回収率の向上が課題である。	・生徒や保護者、学校評議員からいただいた評価について、改善すべき点等検討を加えフィードバックしていくことにより、本校の教育活動の向上へと繋げていきたい。 ・次年度は回答回収率向上のため、生徒にはLHRの時間を使って回答してもらうことを考えたい。	学校 関係 者 への 評 価